

I 目指す学校

学校の教育目標(重視する「育成を目指す資質・能力」)

持続可能な社会の創り手として共生社会を主体的に生き抜くために、「ふるさと府中を愛し世界にはばたく府中っ子」として日々新たに伸びようとする知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな児童を育成するため、次のとおり、学校目標と、これを踏まえて育成を目指す資質・能力を設定する。

- ◎ かしこく (すすんで学び考えながら、協働して課題に取り組む児童：「問題解決力」)
- やさしく (やさしい心を持ち、自分も友達も大切に作る児童：「人間関係形成力」)
- たくましく (すすんで心や体を鍛え、前向きに行動する児童：「自己理解・実践力」)

「教師と子供が笑顔いっぱい为学校」

- ①日新を誇り誇れる日新をつくる児童
- ②高め合い学び続ける教職員
- ③地域とともにある学校

2 中期的目標と方策

(1) かしこく：「問題解決力」を育成するために

- ① 府中市が示したグランドデザイン「4つの学び」の視点(発見・対話・決定・表現すること)からの授業改善を推進し、問題解決的な学習の展開及び分かる喜び・できる楽しさを体得できる授業実践を通して、思考力、判断力、表現力等や学びに向かう力、人間性等の育成を図る。
- ② 計画的な朝学習及び個別学習、めあての提示と振り返りのある授業、習熟度別指導、タブレット端末等ICT機器やミライシードを活用した個別指導や「学年×10分」の家庭学習等の推進により、基礎的・基本的な学習内容を確実に習得できるようにする。
- ③ 児童の多様な個性を最大限に生かして協働しながら、問題解決型学習を推進する。
- ④ 朝読書や読み聞かせ、図書支援員と連携した取組や電子図書館の利用を通して、読書活動の充実を図る。

(2) やさしく：「人間関係形成力」を育成するために

- ① 人権意識を醸成する指導や系統的な宿泊学習等の取組を充実させ、自分も友達も大切に作る心の育成を図る。
- ② 挨拶に関する取組を工夫し、挨拶の響き合う学校づくりを進める。
- ③ 道徳科授業を要とした道徳教育と特別活動を関連させ、思いやりや命を大切にする心、自尊感情の育成を図る。
- ④ 豊かな集団生活や人間関係をよりよく形成するために、学級活動及び異学年交流等を推進させる。
- ⑤ 生活指導や授業規律を徹底し、確かな規範意識を定着させるとともに、不登校等への早期対応を充実させる。
- ⑥ 「日新小いじめ防止基本方針」や生活指導夕会での共通理解のもと、いじめ未然防止等の取組について協働する。

(3) たくましく：「自己理解・実践力」を育成するために

- ① 健康・安全に関して、年間を通して児童が主体的に活動する場の工夫を図り、めあてをもって運動する取組を実施して体力向上を図る。保健指導や保健領域に関連付けた、性に関わる教育、健康に関する啓発活動、健康診断結果を踏まえた指導、学校保健委員会等の工夫とともに、いのちの安全教育やがん教育、食育などを推進する。
- ② 校内実技研修等を計画的に実施し、アレルギー及び感染症等の的確で確実な対応ができるようにする。
- ③ 学級担任と巡回指導教員との連携強化による特別支援教育を拡充し、自己理解・実践力への指導を充実させる。
- ④ 校内委員会の積極的なリードのもと、要配慮児童に関する学校生活支援シートと連携型個別指導計画、サポートルーム支援記録を活用し、スクールカウンセラーや子ども発達支援センター「はばたき」の巡回相談、子育て世代包括支援センター「みらい」、保護者、地域等と連携した継続的な指導・支援を行う。

(4) 学校の教育目標の達成に向けた、その他の事項

- ① スクール・コミュニティ協議会との連携、積極的な授業公開、日新小だより、ホームページ・ブログ等の積極的な情報発信等を通して、学校・家庭・地域が一体となった教育活動を一層推進し、社会に開かれた教育課程を展開する。
- ② 学校と地域が協働して「未来へつなぐ府中 2020 レガシー」や近隣の施設への訪問、保護者や地域の方々をゲストとして招聘した学習など、地域教材を活用した問題解決的な学習を積極的に推進し、「母校を誇り 誇れる母校をつくる児童」を育成する。
- ③ 「熱中症予防要配慮期間」での教育活動の工夫、キャリア教育及び防災教育、情報教育、環境教育等、多様な教育課題と日常的教育活動との連携を重視した意図的・計画的な指導の充実を図る。
- ④ 府中八中学校区の学校や近隣の保育園・幼稚園と連携し、「府中の架け橋プログラム」や学習・生活指導、宿泊学習等について、「きづく・つながる・たかめる」をキーワードに、就学前・要配慮・不登校児童等への共通実践を通して、子どもの発達段階と学びの連続性を重視した取組を推進する。
- ⑤ 教育活動の PDCA サイクルでの評価と改善、教職員の服務明確化と服務事故防止、働き方改革、子育て不安・児童虐待等への組織的対応や関係諸機関との連携等により、実行性のある着実な学校運営を展開する。

3 今年度の取組目標

(1) 教育活動の目標と方策(赤字は重点目標とその方策)

【各教科及び外国語活動】

- ① 振り返る活動を重視した問題解決的な学習活動を積極的に取り入れる。主体的・対話的で深い学びを推進し、多様な学習活動を通して思考力、判断力、表現力等や知識・技能の定着を図る。また、発達段階に応じて系統的に人権感覚を醸成していくために、「人権作文コンクール」を活用する。
- ② 全国学力・学習状況調査や校内の学力に関する調査等の結果等を生かした**授業改善推進プランの作成や活用を通し**、目標に準拠した系統的で適正な学習評価と**授業改善を行う**。また、指導と評価の一体化を推進し、評価規準に基づく適正な評価・評定を行い、カリキュラム・マネジメントを推進する。
- ③ **読書に関する各学年の目標(1・2年生100冊以上、3~6年学年×1000ページ以上)**と記録の集積、読書活動の各種取組や学習への情報収集、家庭との連携等を通して、系統的な読書活動及び**学校図書館と電子図書館の活用を図り、豊かな知性と感性を育む**。
- ④ 「東京都統一体力テスト」の分析結果を踏まえ、体づくり運動など様々な領域の体育学習を中心に、日新マラソン、「ふちゅうロープチャレンジ」、計画的な長縄集会記録会等の全校的な体育的活動を推進し、1日2回20分休みの外遊びや学校HPの縄跳び動画の視聴を含めた**運動の日常化と体力向上を図る**。
- ⑤ 小・中連携事業と共に外国語教育の改善を図り、ALTやICT機器等の活用、児童が外国語やその文化に親しむTGGや世界とつながる「イングリッシュ・キャラバン」の取組を通して、コミュニケーション能力の素地を養う。また、「未来へつなぐ府中 2020」とも関連させ、日本と外国(台湾)の言語や文化の違いについて、興味・関心及び理解を深めさせる。

【道徳科】

- ① 道徳教育推進教師を中心に、「**自他を大切に考え、思いやりをもって行動する児童の育成**」を道徳教育の重点とする。また、対話や話し合いからの学びと特別活動での体験等を関連付けて道徳科授業の充実を図り、道徳的価値の自覚を深め、道徳性を養う。
- ② 児童が道徳的諸価値についての理解を深め、他者及び自己との対話的な学びを通して多面的・多角的に考えるとともに、**自己を見つめ、よりよい生き方について考えを深める「考え、議論する道徳」の推進を図る**。
- ③ 道徳授業地区公開講座等の取組を通して、家庭や地域との相互理解を深め、児童の実態に即した道徳教育全体を推進するとともに、保護者や地域との連携・啓発を深化させる。
- ④ 「郷土府中に根ざした道徳資料集」を活用し、郷土を愛する心とふるさと府中に誇りをもてる児童を育成する。

【総合的な学習の時間「日新アクティブ」】

- ① 教科等で身に付けた知識及び技能、思考力・判断力・表現力等を発揮しながら見方・考え方を働かせ、福祉・環境・防災・国際理解・伝統文化・キャリア等に関する本校ならではの取組を行う。さらに、学校図書館やタブレット端末、調べ・まとめ・伝える等の力を培う。自ら設定した課題について、探究的なプロセスを通してよりよく解決するとともに、学びに向かう力や自己の生き方等を考えていくことによって、児童一人一人に問題解決力を育成する。
- ② 教科等横断的・総合的な視点により学習課題の系統性を整理し、宿泊学習での学びや経験等も含め、組織全体で計画的な学習を推進する。
- ③ 発達段階に応じた論理的思考力を育むために、情報教育及びプログラミング教育を各学年の年間指導計画に位置付け、各教科等の中で意図的・計画的に取り組み、新しい端末をすすんで活用する。
- ④ 本校ならではの伝統ある地域教材や本市の関係施設を活用する等、児童にとって身近で豊かな学びを系統的な教育活動を推進するとともに、児童が地域や本市に誇りを感じ、未来について考えるよう、「ふるさと府中」に誇りをもてる児童を育成する。

【特別活動】

- ① 各教科・道徳科・その他領域等との関連を図り、「キャリア・パスポート」に学校生活のめあてや振り返りを継続的に記録することを通して、自ら自己実現を図ろうとする態度や、思いやりのある心豊かな人間関係を築こうとする態度を育てる。
- ② 学級活動・児童会活動・クラブ活動・学校行事の質的な充実を図り、望ましい集団活動を通して、自他を理解するとともに、協力してよりよい生活を築こうとする自主的・実践的な態度や社会性の育成を図る。
- ③ 校外学習や「わくわく自然教室」「日光移動教室」等での自然体験や宿泊体験を通して、自然環境や伝統等の特長を生かした実感の伴った自他の理解や社会の一員としての自覚を意図的・系統的に育成する。

【生活指導】

- ① 家庭と連携して、年間を通して「日新三つのあ」：「**あ**いさつ(礼儀)、**あ**つまり(自律)、**あ**としまつ(共生)」と「早寝・早起き・朝ごはん」を徹底し、基本的な生活習慣と学習規律の確立、自他を大切にすることの育成を図る。
- ② 全学年で「SOSの出し方に関する指導」及び自殺予防に関する校内研修を年1回以上実施する。また校内の相談体制を充実させ、小さな不安や悩みでも、児童が身近な大人に相談できる環境を整える。
- ③ いじめや不登校等の未然防止や早期発見・早期対応を図るために、いじめの状況を把握するためのアンケートを年3回実施するとともに、タブレット端末を活用した年8回の「心の天気」を実施し、校内委員会や生活指導夕会、児童理解研修会の充実や、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、巡回相談心理士や府中市教育センター巡回相談、子育て世代包括支援センター「みらい」等との連携、タブレット端末を活用した学習保障などの取組を推進する。
- ④ いじめについては、「本校いじめ防止基本方針」に基づき、年間3回の「いじめに関する授業」と教員研修、速やかないじめ対策委員会の開催や保護者への発信等により、組織的かつ家庭や関係諸機関と連携した迅速な対応を継続する。
- ⑤ 不登校の未然防止及び早期解決のために、3日連続の欠席から支援体制を構築する。4名の特別支援教育コーディネーターを中心に、校内委員会で検討し、組織的対応を開始する。サポートルーム支援記録を活用して保護者と協働し、学級復帰につなげる。
- ⑥ 「防災ノート」「東京・マイタイムライン」等を活用し、家庭や地域及び関係諸機関と連携して、実際に即した危険予知及び危険回避の能力を育み、自分の命を自分で守ろうとする指導を充実させ、防災教育を推進する。特に、本校は多摩川の浸水想定区域にあるため、水害に関する内容に重点を置く。また府中市教育委員会「学校防災の日」では、府中八中学校区で連携した引き取り訓練を計画的に実施する。
- ⑦ 「SNS府中ルール」や「GIGAワークブックとうきょう」に基づいた情報モラル教育の充実について、府中八中学校区で協働するとともに、関係諸機関と連携したセーフティ教室を保護者・地域に公開するなどして、家庭や地域と連携しながら非行・犯罪被害防止教育の推進を図る。
- ⑧ 年度当初に食育及び食物アレルギーや嘔吐処理等についての教職員向け実技研修を行い、対応力向上を図る。

- ⑨ 性に係る教育については「性教育の手引」等を活用し、教育活動全体を通じて行うとともに「生命(いのち)の安全教育」や「がん教育」についても学校安全計画に位置付けて保健指導を行い、家庭や地域と連携を図る。
- ⑩ 熱中症対策として、熱中症予防要配慮期間中には市で提供された「のぼり旗」を活用し、外での活動は控える。また保健指導や安全指導において熱中症予防授業を年間指導計画に位置付け、**児童自らが熱中症を未然防止する力を育てる。**

【キャリア教育】

- ① 児童の発達段階や個別の特性等に配慮しながら、自分のよさや可能性を自覚し、将来に向かって夢や希望をもって自己実現を図ろうとする意欲や態度の育成を図る。
- ② 学校の教育活動全体を通じたキャリア教育の全体計画及び年間指導計画に基づき、児童の望ましい職業観・勤労観を育むとともに、基礎的・汎用的能力、特に人間関係形成能力及び自己理解・実践力の育成を図る。
- ③ **小・中連携の視点に立ち、「キャリア・パスポート」を活用して、学習内容の系統性や円滑な接続を踏まえた「学び」を実践する。**また規範意識や道徳性、地域の一員として考えさせる指導の連続性や学校生活支援シート等を活用した特別な配慮の継続性を踏まえた「育ち」を実践し、充実を図る。

【特別支援教育】

- ① 多様な児童に対する個に応じた継続的な指導・支援を実現するために、個別の支援ファイルを作成する。校内委員会の多面的な機能を実現するために、特別支援教育コーディネーター4名と生活指導主任やスクールカウンセラー、巡回指導教員、関係諸機関との連携強化を図る。
- ② **すべての児童が学びやすい教育を実現するために、ユニバーサルデザインを取り入れた指導及び環境整備の充実を図る。**また、在籍学級担任と巡回指導教員との場を共有した指導及び副籍交流や交流及び共同学習の実施等を通じて、豊かな人間性や社会性を育むとともに、共生社会の形成に向けた障害者理解を推進し、家庭に啓発する。
- ③ 特別支援教室拠点校として多様な要配慮児童に対する組織的な指導・支援を行うために、支援レベル1から学校生活支援シートと個別指導計画を作成する。**児童・保護者にとって安心・安全な学校生活の実現を目指して日常的な特別支援教育を推進する。**また、巡回校の特別支援教育についても、巡回指導教員が校内委員会及び在籍学級担任と協働することで、その推進を図る。

【人材育成】

- ① 自己申告において、担当職務や日常業務について主体的な取り組み目標を設定することで、教職員がやりがいをもって職務に取り組めるようにする。
- ② 校内研究、府教研、各種研修・研究会等へ積極的に参加し、自己研鑽を図る。
- ③ **教員同士が互いに学び合えるように、校内で定期的に授業公開を行い、OJTを活性化させる。**
- ④ 年間3回の服務事故防止研修とともに、毎月の「服務ニュースレター」を基に教育公務員としての自覚と責任をもたせ、**服務事故ゼロを実現させる。**
- ⑤ 児童とふれあう時間を確保したり、ライフワークバランスを醸成したりするための働き方改革を推進する。

【地域連携】

- ① スクール・コミュニティ協議会を年5回開催し、本校の強みや課題について話し合い、よりよい教育を創造していく。
- ② **地域コーディネーター4名と連携をとり、地域人材や地域材を積極的に活用した教育活動を展開する。**(保育園・幼稚園との交流、まちたんけんにおける協力店との交流、福祉施設との交流、キャリア教育の講話等)
- ③ 学校と保護者が協力して子供を育てていく「共育」の意識を醸成できるよう、**6月と10月に学校保護者会**を行う。学力向上のための取り組みとして、「家庭学習の手引き」等を作成し、「10分×学年」の家庭学習の習慣が身に付くようにする。

教育目標

子供・家庭・地域社会の願いを受け止め、ふるさと府中を愛し、世界にはばたく府中っ子として日々新たに伸びようとする、知徳・体の調和のとれた人間性豊かな子供を育成する。

- ◎かしこく(問題解決力) ○やさしく(人間関係形成力) ○たくましく(自己理解・実践力)

目指す学校像

「教師と子供が笑顔いっぱいの学校」

- ①日新を誇り誇れる日新をつくる児童 ②高め合い学び続ける教職員 ③地域とともにある学校



< 日新を誇り 誇れる日新をつくる児童 >

- ①「日新三つの◎」
◎「あいさつ(礼儀) あつまり(自律) あとしまつ(共生)」を基盤とした学校生活
②基礎・基本的学習内容及び振り返り力の定着
◎チャレンジタイム、タブレット端末等の活用による個別の指導 家庭学習の工夫
◎問題解決型学習、話し合い活動、ワークシートの活用
◎「10分×学年」の家庭学習習慣の確立
③豊かな知性と感性を伸ばす読書活動
◎読書マスター及び学校図書館利用による読書への興味・関心、知性・感性の向上
1・2年生100冊以上、3～6年:学年×1000ページ以上
◎他教科等との関連付けや読書活動の工夫
④たてわり班活動の充実
◎リーダーを中心に、主体的に楽しむ活動
⑤「日新エージェンシー」の推進
◎課題解決学習:生活科&日新アティブの接続
⑥「府中っ子」「日新を誇る児童」の育成
◎地域教育材を活かした伝統ある教育活動
5年「餅つき・丸餅作り」、6年「菊作り」

< 高め合い 学び続ける教職員 >

- ①話し合い活動による「主体的・対話的で深い学び」問題解決的学習の実施及びICT機器の効果的活用
◎職層に応じた教師同士による、高め合い・学び合い
◎自己申告及びPDCAサイクルに基づく授業力向上
②チーム力を活かした校務分掌や組織運営
◎連携・協働・創意工夫で教職員のチーム力を発揮
◎OJTによる人材育成
◎サービス事故ゼロの実現
③児童の実態に学ぶ生活指導全体会・児童理解研修会・毎週の生活指導夕会に基づいた共通実践
◎いじめ、不登校に対する柔軟な組織的対応
◎「つかむ1学期」「深める2学期」「広げる3学期」
④特別支援教室「ひばり」拠点校：特別支援教育の推進
◎認知特性等を考慮した分かりやすい授業や学習環境
◎学校生活支援シート(連携型)個別指導計画の活用及び特別支援教室「ひばり」教員との協働
◎特別支援コーディネーター4名を柱とした組織的な校内委員会による教育相談体制の推進と保護者への啓発と連携

< 地域と共にある学校【府中版コミュニティ・スクール】 >

- ① 保護者・地域と協働する、規範意識や「自分を大切に 友達を大切に」する心の育成
◎学校保護者会(6月・10月) ◎道徳授業地区公開講座(1月) ◎関係諸機関や諸団体との連携強化
② 開かれた学校・地域に根ざした教育の推進
◎開かれた学校としての授業と行事の公開 ◎スクール・コミュニティ協議会、学校保健委員会
◎保護者・地域と連携した特色ある行事・活動 ◎日新小だよりやホームページ・ブログの充実
◎幼保小連携や小中連携教育の八中学校区の協働による、連続性のある「学び」と「育ち」の連携
③ 児童の安心・安全の確保 ◎青少対との情報交換 ◎サポートルーム・学校と家庭の支援員の活用
< 伝え引き継ぎたい伝統・校風 > 「日新エージェンシー(生活科・総合的な学習の接続)」等
「日新ランド」「まちたんけん」「保育園児との交流学習」「地域見学」「どんど焼き見学」「お囃子体験」
「日新小の実のなる木」「障害者理解学習」「箏演奏体験」「5年水田プロジェクト、餅つき・丸餅作り」
「6年ふるさと府中と菊作り」「5年わくわく自然教室」「6年日光移動教室」「ボランティア集会」
PTA・保護者ボランティアによる「夏休みの肝試し大会・ラジオ体操・美化活動」